

パーソナルファイナンス学会
2022 年度会員総会 議事録

日時：2023 年 2 月 18 日（土）11：50～12：20

会場：オンライン開催

出席者数：47 名+委任状：33 通=80 名

定足数（会員数の 1/10）：14 名

議長である坂野会長より、開催に先立ち、はがきでの委任状 17 通と WEB での委任状 21 通と重複する 5 通を除いて 33 通であることと、オンライン会場の入室者とあわせて定足数を満たしていることが確認された。

報告事項の各委員会・部会活動については、時間節約のため、リエゾンオフィスよりチャットで資料を送るので、各自ご参照いただきたいと依頼がなされた。

審議事項

1. 2023 年度第 23 回全国大会について

坂野会長より、2023 年度こそ対面で開催したいが、オンラインの良さもあるので、可能であればハイフレックス方式にて開催したいとの希望が述べられた。開催校については、調整中であり、開催してもよいという立候補があればお知らせいただきたいとの要望が述べられた。

2. 2023 年度第 24 期予算について

坂野会長より資料に基づき、2023 年度予算について説明がなされた。ほぼ例年を踏襲していることが説明され、2023 年度予算は承認された。

3. 入会・退会について

坂野会長より、資料に基づき 1 名の入会と 4 名の会則による退会と法人会員 1 社の退会が報告された。

報告事項

学会賞表彰式

学会賞委員長の前田理事より、2022 年度の授賞作について、李立栄氏の著作『中国のシャドーバンキング：形成の歴史と今後の課題』が決定したとの報告がなされた。続いて、前田委員長より表彰の言葉が述べられ、審査のポイントとしてシャドーバンキングというと 2008 年の金融危機の時に大きく取り上げられ、李氏の著書ではその中でも特に中国のシャ

ドーバンキングに焦点を当てているという点であるとの説明がなされた。審査では、次の4点、1.研究課題について、2.研究方法について、3.著書の意義について、4.学会への貢献について、を重点的に審査したとの補足がなされた。特に学会への貢献については、中国のシャドーバンキングが拡大する背景にある家計や個人の行動についても考察している点、中国の金融は特殊であるので銀行で十分にカバーしきれない領域が多い中国の金融システムの在り方まで踏み込んだ内容になっているという点が評価されたとの報告がなされた。

李氏より、受賞作品のタイトルにある「シャドーバンキング（影子銀行）」は銀行ではないが、銀行のように資金を提供している仕組みであり、あたかも銀行のように機能している総称との説明があった。この「シャドーバンキング」が知られるきっかけとなったのは、2008年のリーマンショックでの金融危機が生じたことであり、同じころに日本ではシャドーバンキングの中国のリスク管理が不十分ではないか、また全く異なる概念であるにもかかわらず、「影」の銀行であるので、日陰、暗いという「shade」を連想して、闇金融と混同されることもあったとの経緯が述べられた。アメリカと中国のシャドーバンキングの議論の対象は異なり、あるいはその評価も異なるべきではないか、という独自の疑問をもち、これを出発点とした研究をまとめたものが本書であり、亜細亜大学アジア研究所主催の「令和4年度アジア研究奨励賞」も受賞したとの報告がなされた。また、出版に際して、金融専門誌、学術誌に12件の書評を掲載していただいた。この有益なご指摘は今後の研究課題に反映したいとの抱負が述べられた。今回の受賞について、学会の先生方のご指導に感謝するとともに評価していただいたことを素直に喜びたい、とのお気持ちに加え、御礼の言葉が述べられた。

坂野会長より、あらためてお祝いの言葉が述べられたあと、午後の開始時間が確認され、会員総会が終了した。

(文責 リエゾンオフィス)